

「ご挨拶」

東京北見会会長

井戸理恵子



清秋の候、日に日に夜が長く感じられる季節となりました。みなさま益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年は1月の九州霧島山新燃岳の噴火から始まり、3月の東日本大震災、そして台風12号と平安時代の一時期に多くの大天災が重なった「貞観（じょうがん）災害」の再来と云われる天災に見舞われました。これらの災害で東北地方を中心に関西地域でも多くの方々が亡くなられました。更に人災とも云うべき、原発の問題が拍車をかけ、未来に暗い影を落とした年として人々の記憶に遺ることでしょう。しかしながら、古の我が国に起きたことがそうであったように日本人はこうした困難の中から未来を生き抜く知恵を見だし、文化として発展させてきた民族でもあります。

室町時代の御伽草子に書かれている一文があります。「要（かなめ）草子」というものでまさに地震のことを唱えたもの。そこにはこう書かれています。「地震「なぬ」とは、五穀豊かに民栄ゆべき兆（しるし）なり。」と。

地震や天災が起るとその時は大変ではあるが、そもそものは大地のエネルギーが高く、農作物は豊かに、人々が互いに助けあう為、益々発展に繋がっていくものである、と。また、貞観年

間に先人達が遺した知恵としての平安祭祀の記録や建造物に遺る知見が言い伝えとして被災地の多くの命を救い、また地震学者たちの目に止まり、科学的な手法で再認識されたことも否めません。互いにコミュニケーションをはかることによって普段とは違った「ものをみる目」が養われるのでしょうか。

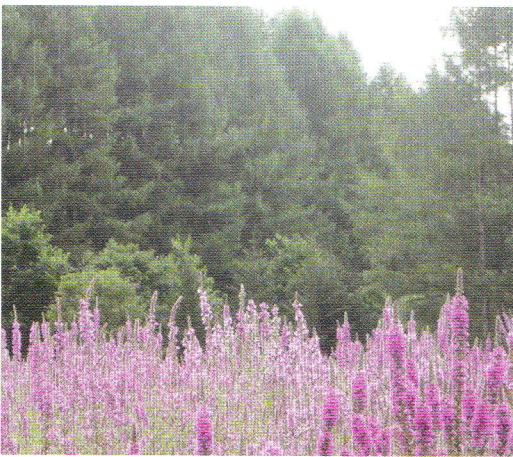
地雷の上に生き抜いて来たような祖先達の自然に対する価値観などを紐解き、新たな時代へ向かう意気込みのようなものも今後益々必要なのではないかと感じる次第です。北見市でもこの災害に際し、被災地にさまざまな取り組みをなされたようですが、自然災害の少ない地域として今後受け入れ態勢なども視野に入れ、観光資源以外に期待される北見の価値を内外に知らしめていくことも重要な課題かと思えます。

さて、東京北見会ではここ数年11月の半ば過ぎに土日を利用しての総会を開催して参りました。しかしながら、他のふるさと会の総会と重なったり、比較的良好な天候に見舞われるこの時期は会員の皆様のイベント毎が多くなる傾向にもあります。そこで今年の総会は平日で会社帰りの方も軽く参加できるように昔の総会に準じて設定してみました。

丁度、この時期は旧暦の9月15日を始めとする「神嘗祭」の期間にあたります。

神嘗とは食べ物に感謝をする新嘗祭よりもっと古いお祭りです。日本人が米を常食とする以前から重要視されてきた祭事。芋の収穫を始め、栗や木の実がたわわになり、魚が美味しくなる時期でもあります。今回はスエヒロさんのご協力を得て、北海道の美味しい獲りたての海山の幸をふんだんに使ったメニューをご用意致しました。懐かしい北見の味を地元出身の方々も心ゆくまで楽しんでいただければと存じます。

最後に皆様の方々のご発展、ご健勝を祈念致しまして、挨拶とさせていただきます。



北見の薄荷